



全国公立学校教頭会通信 第2号

きずな

第1回 全国研究部長会

発行 令和6年8月26日

全国公立学校教頭会広報部

電話： 03-3436-4868

Mail： zenkokyo@kyotokai.jp

HP： <https://kyotokai.jp>

令和6年7月5日(金)、令和6年度全国公立学校教頭会第1回研究部長会を開催(オンライン)しました。その概要をお伝えいたします。

1 期日 令和6年7月5日(金) 11:00~16:15

2 出席者 各单位教頭会・副校長会研究部長 52名

北海道ブロック7名 東北ブロック6名 関東甲信越ブロック10名 東海北陸ブロック7名
近畿ブロック7名 中国ブロック4名 四国ブロック4名 九州ブロック7名
全公教関係 17名 合計 69名

3 内容

(1) 全体会 11:00~11:20 司会(館岡研究部員)

①開会の言葉(西田副会長)・全公教研究部紹介(名簿による)②会長挨拶(松野会長)

③全公教研究部 第13期研究について

★研究主題「第13期 未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(畠中研究部長)

(2) ブロック別協議 11:20~12:30

①今回の研究協議の概要・方法についての説明(池原研究部員)

・今回の参加者を、地区ブロック別に振り分け、15グループ編成して研究協議を行う。

②研究協議 協議60分間程度

・司会者(全公教役員)

・協議：「各学校における管理職としての課題」

③班別協議の報告による共有 3班×3分(池原研究部員)

・情報を共有し、各地で広めることをねらいとして、協議後、3つの班が発表する。

◆北海道ブロック

・教員の欠員が課題—管理職が支援 働き方改革—仕事内容の精選 年齢構成の不均等—中間層が不足 若手と味道リーダーの育成

◆関東甲信越ブロック

・不登校児童、生徒への対応の在り方 校務支援システムの活用による業務改善 新採用教員の離職率と育成

◆中国ブロック

・教員不足が課題 コミュニケーションの重要性 管理職の多忙化 学校の業務の在り方—あまり改善されていない現状

※12:30~13:30 昼食(60分間)

(3) 講演・堀田博史先生による講演 13:30~14:35

講師紹介(矢板研究部員)

講演：教育DXの推進と副校長・教頭の役割

講師：園田学園女子大学 教授 堀田 博史 氏

※14:35~14:50 休憩(15分間)



○教育DXとは?GIGA スクール構想を推進し、クラウド環境・生成AIを活用。教育データの収集・分析・利活用を通じて、全てのこどもに個別最適で充実した学びを実現。校務DXを活用して、教員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を実現

○骨太方針2024-教育DXの加速

○個別最適な学びと協働的な学びの一体化 自己調整学習をより充実させる

○GIGA スクール構想の効果(小・中学生の意識調査から)・情報モラルを意識している ・クラウド上で友達と考えを共有できる 図や表にまとめることができる ・自分の考えと友達のことを比較できる ・ネットで調べた複数の内容を比較したり相違点を考えたりする ・自分の判断で友達のことを共有する

○教員のICT活用能力(実態調査)・教員のICT活用能力チェックリストの考察

○授業での生成AIの有効活用

- 児童、生徒の情報活用能力の向上(2015 年当時の課題と現在の課題)・複数の情報を読み取れない(50%)・目的に応じて情報を整理したり、複数の事象を示した図を読み取いたりすることができない(57%)
- 日常的な情報活用能力の育成と家庭における情報活用能力の育成
- 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン(令和 6 年 1 月改訂)・ガイドライン改定のポイント

(4) 研究協議と発表 14:50～15:50 *グループ別協議

①研究協議方法の説明 (支倉研究部員)

ブレイクアウトルーム設定機能を利用して行う。

②研究協議 (40 分間程度)

講話から『個別最適な学び』、『協働的な学び』を推進していくための学校としての取組と副校長・教頭としての役割

③班別協議の報告による共有 3 班×3 分 (支倉研究部員)

・情報を共有し、各地で広めることをねらいとして、協議後に 3 つの班が発表する。

◆B グループ

・オンライン授業の具体的な実践例 ・AI ドリルの活用と課題

◆G グループ

・教育 DX と働き方改革について具体的な活用例 ・神戸市の取組み例の紹介 ・校内研修の取り組例
・ベテランと若手とのギャップを埋めることが課題

◆M グループ

・1 人 1 台端末の活用についてー共有はできるが交流することが課題 (授業力の向上)
・朝の時間ーキーボード入力 (タイピング) の練習を位置づけた ・タブレットを活用した朝学習の導入
・有効なアプリやソフトウェアの紹介 ・ICT に関する校内研修の在り方

④堀田先生より、質問・発表をもとに助言 15:50～16:05 (支倉研究部員)

・謝辞 (三木副会長)

(5) 第 66 回全国研究大会 高知大会について (高知大会研究部長)

(6) 閉会の言葉 (中嶋副会長)



【令和 6 年度 研究部の研究テーマについて】

「教師の働きがい高める環境整備を推進するための、学校の取組みと副校長・教頭の役割」

○テーマ設定の理由

昨年度は、5 月以降新型コロナウイルス感染症の拡大状況が一定の落ち着きを見せるなか、社会全体が元の活動形態を取り戻しながらも、コロナ禍のもとでデジタルネットワークが飛躍的に進展した。学校教育においても、政府の IT 新改革戦略(2006)、第 1 期教育振興基本計画(2008)で示され今日まで続いている学校の情報化に関する施策の積み重ねと GIGA スクール構想(文部科学省 2019)による全国一斉の整備等、教育全体の情報化の「日常化」への取組がさらに進められる中、全公教研究部では令和 5 年度のテーマを「教育 DX を推進していくための学校としての取組みと副校長・教頭の役割」に設定し、研究の進展を図ってきた。

そうした情勢のなか、本年 5 月には中央教育審議会において『令和の日本型学校教育』を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について (審議のまとめ)が公表され、今後、教師が働きがいを持ち、心身ともに健康な状態で教育に携われるための環境整備は加速度的に進行することが想定される。

私たち副校長・教頭は、これまでテーマとしてきた「教育 DX の推進」も手段の一つと捉えながら、より良い授業、より良い学習体験、より良い教育環境の提供に引き続き積極的に参画していくことが大きな責務である。何より私たち自身が、副校長・教頭としての職務の魅力を見直し、生き生きと教師の要の役を務めることが、職場の教職員の働きがい高め、子ども・家庭・地域の活力を喚起し、これからの日本社会に根差したウェルビーイングの定着に寄与するであろう。

そして、こうした私たちの実践が束ねられていくことが第 13 期全国統一研究主題にある「未来を切り拓く」「魅力ある学校づくり」に迫るものであると考えた。

以上のことから、各地域における学校の取組と副校長・教頭の役割、今後の取組のさらなる深化を目指して、上記のテーマを設定し研究を進めることが有益であると考えた。